



繪本寫寶袋

七

~~P~~
~~278~~
~~7~~

逍遙文庫
文庫6
1293
7



繪本寫實代卷七之卷目錄



花雕遁則後仇圖

玄徳躍馬跳檀溪湯

綿裏討趙雲救百湯

仙人之記

王母持櫻桃湯

巨靈人叱虎湯

陈捕虎之流流湯

張良賣劍統韓信圖

曹操橫槊賊約湯

關羽單刀赴会湯

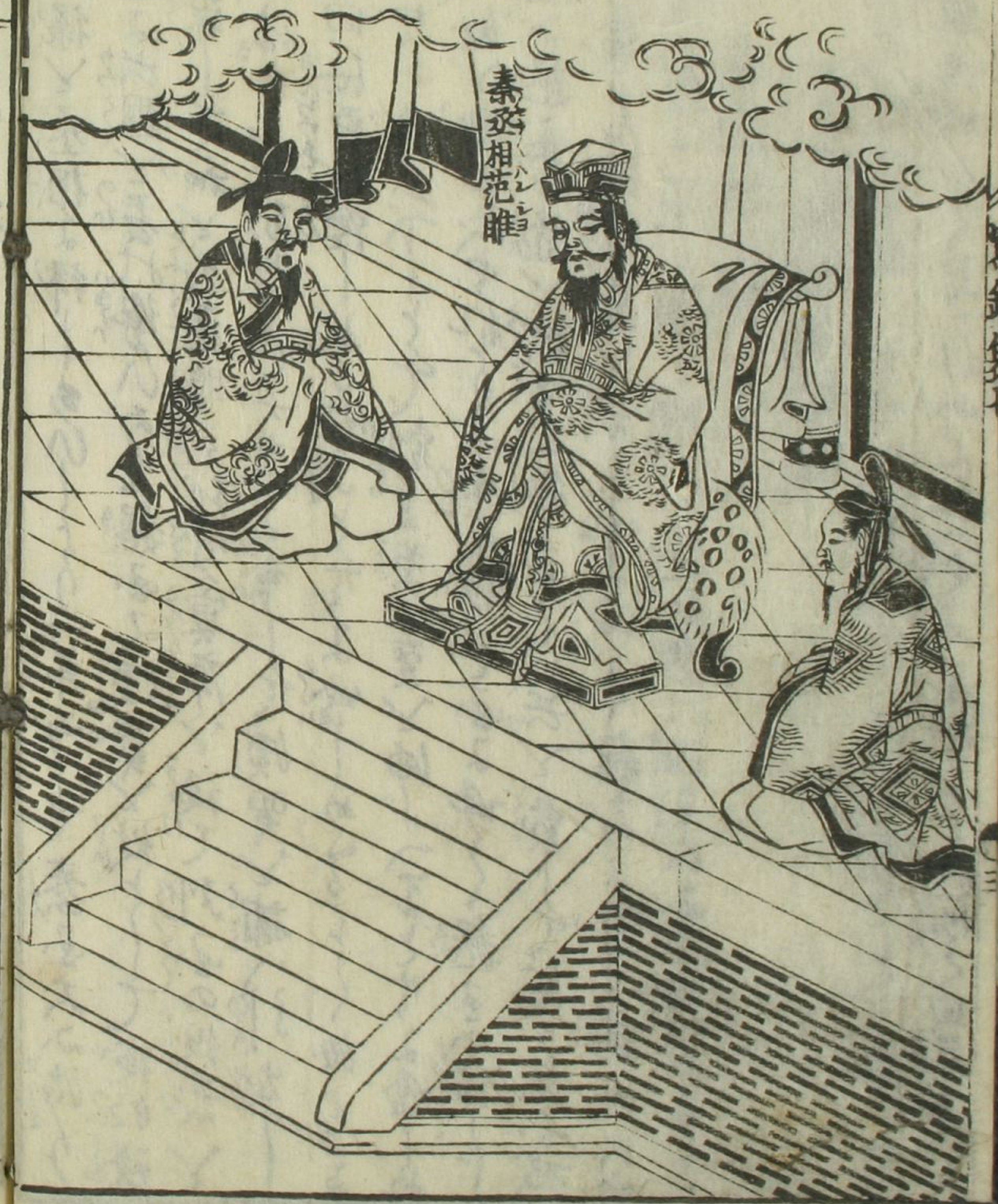
羽和權崔暎途上帝湯

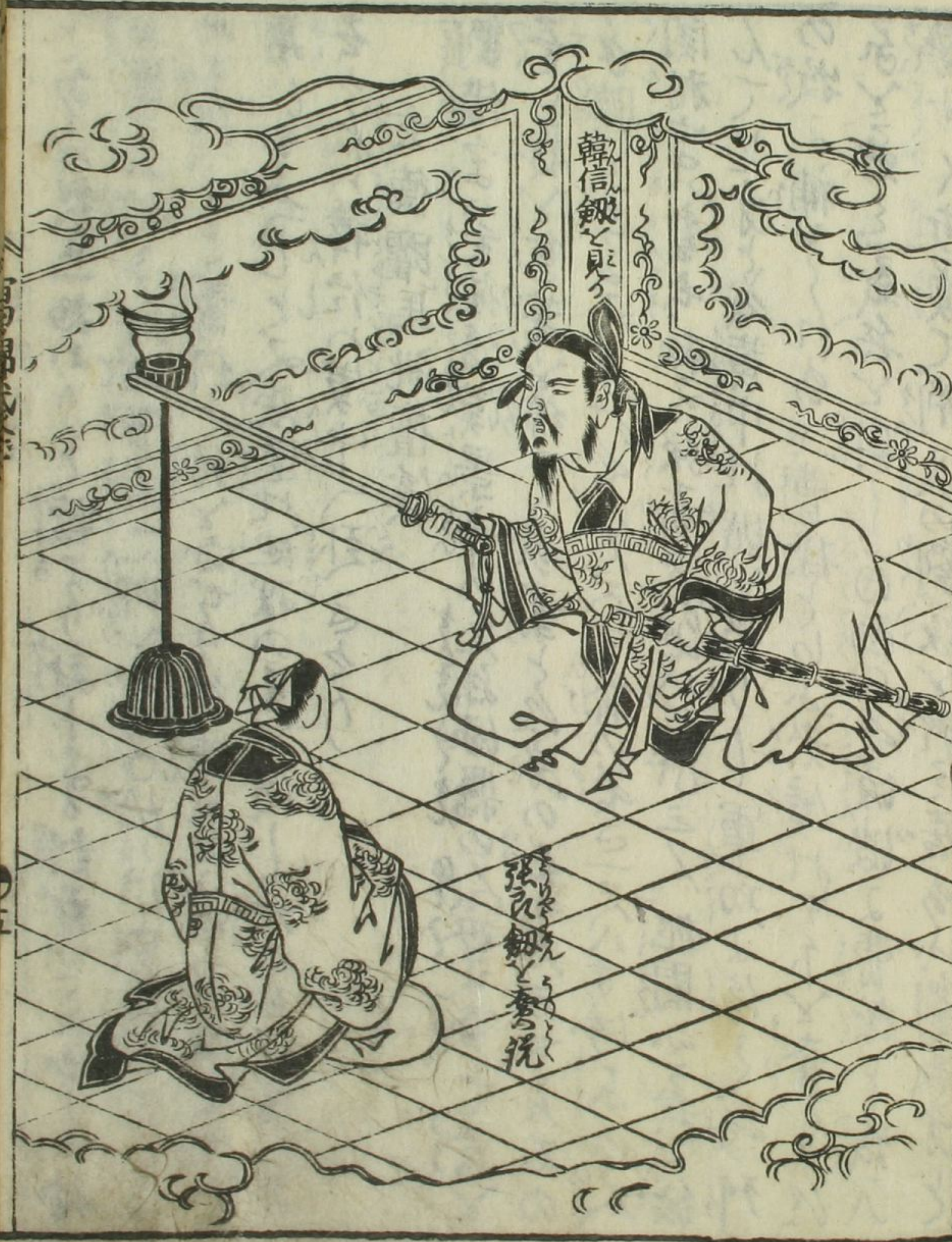
吳桓帝白帝車持白羽扇湯

通玄甄子出約湯

繪本寫實代

卷七





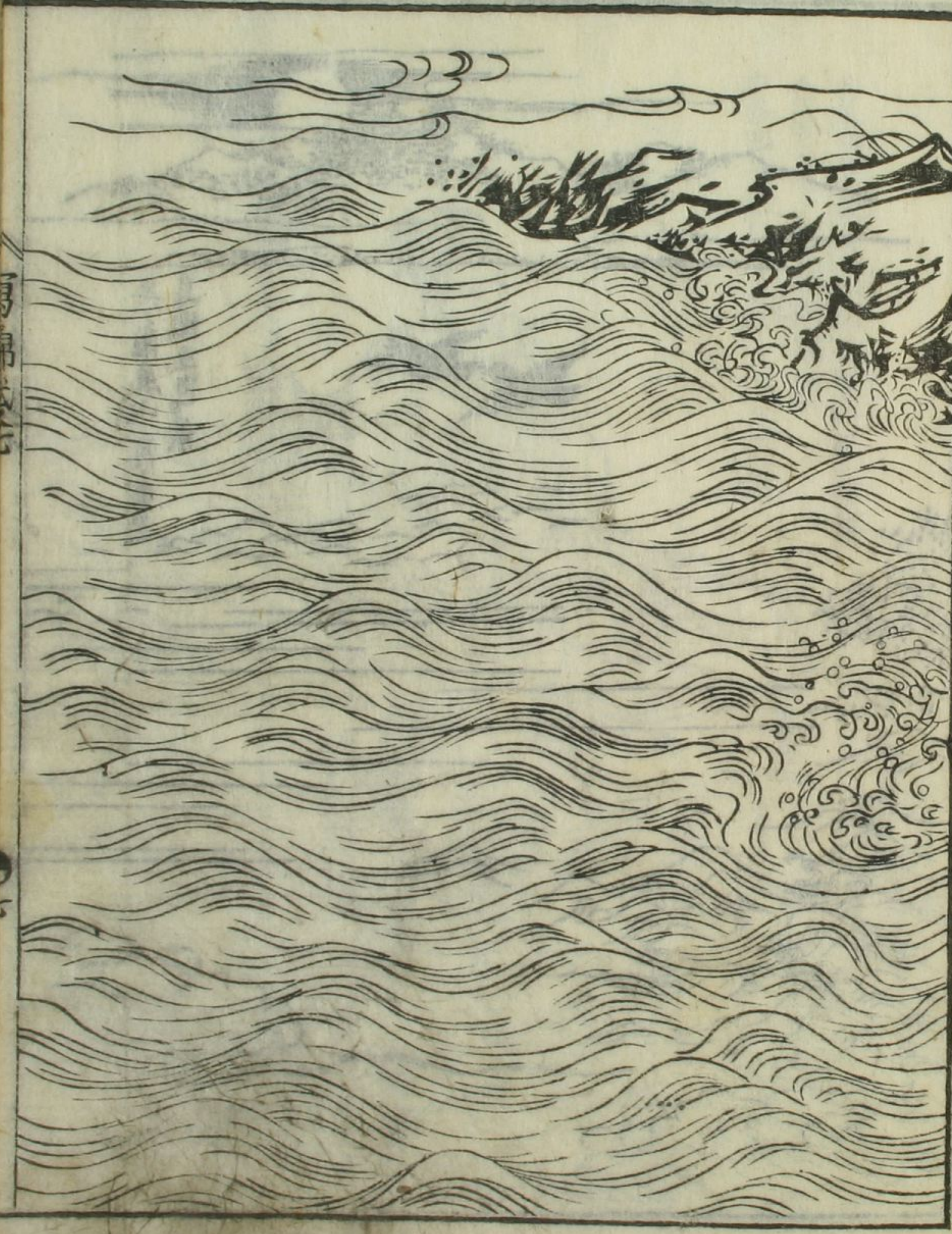
かりんあれいふ事よ遇んといひあふそ張良が曰吾が敵の宝劍
 三振あり我よ世の希なる宝劍なり遍く天下に英雄と求め
 先その人よらん次お劍と奪る既ふ二つありは奪られども
 一ありそ人よ遇びておし奪り將軍は劍と持ありて威
 天下を制せん韓信の口ひそる我の今先生劍と持事て示
 する死くハ一死せん張良劍とつらわれ韓信灯此下して
 扱てつらふよ公の口あさりふ我ひ同く曰ば劍ふ名はまさり
 張良が曰我く名あり一の天子の劍一の宰相の劍一の
 元戎の劍二振の雅人は賣あひしぞ曰天子の劍ハ下
 へふより宰相の劍ハ蕭何よりいげ元戎の劍ハ下
 へふより女特よ事くきむるなり韓信が曰先生ハ韓信
 張子房よといふなり張良が曰將軍をよかめハ韓信大よ
 笑て先生ハ人中ハ此流なり我友と云く僕王よゆせ
 んと云ふと死くハ計とあるハ張良が曰將軍僕王よゆせん

とあるが我は一抱ありと懐より封じざる刻存と云ふ一徳
目僕王ふ列く時破林大元帥と云ふは巴は割存といて
めをたへしと蕭何と約とあり將軍赴きあり漢王を
用ひあふしと又張道地理の果と後し次の日張王は出
去られ韓信の漢中へ赴きたり

玄德躍馬挑檀溪

劉備字の玄德後漢景帝の元孫涪縣の人母を斬て孝と
てし履と舊蓑と織く衣業とん家の長七尺又寸たたの
手膝と云ふ又身は九尺又寸髯の長二尺八寸河東の人
関羽字の雲長叔父張亮身は八尺七寸三人桃園ふ義と結
んで兄弟と成黄巾此賊と破りし軍功又依り豫州
の牧を補せられあふ曹操とありお老候れと下と奪んとん
家と無と義兵と與し南陽の長坂坡は曹操と殺入
勢よく打負て荆及びの劉表と殺し居あふ劉表才と

稱して襄陽の新野城とありしは劉表病あり荆及び豫
ひとと云ふ玄德はけあふ劉表妻の兄蔡瑁と云ふは乃政
下と云ふと劉表玄德と云ふは乃政と云ふは乃政と云ふは
後の英と蔡夫人と計て襄陽に會し信し玄德と拒さるふ
玄德何の心もれくありあふ蔡瑁は向たり悦びぬ酒三
巡及ふ時伊籍の者不益とれと玄德は今あはれと目く
たりて夜と着りあふと玄德は心と悟り厨へ移す
出真伊籍私に云ふの蔡瑁君と殺人を城外三方の皆
大旗と伏せり西の門に担漢と殺せ伏せと回さるはた
より旗あて告ぐ玄德はの盧はるあり担漢はあり
あふ白波天は張王後と云ふは後と云ふは六軍と
宵よのれ馬と云ふは打金と云ふはたの魚と云ふは
空よのれ忽ら躍天飛と云ふは飛と云ふは飛と云ふは
中よのれ老と飛と云ふは飛と云ふは飛と云ふは飛と云ふは



玄德解的盧馬二乘擅渡溪口越入所

篇錦袋七



曹操身長七尺細眼長髯行年五歲
舟頭ニ立テ横槊詩賦ノ圖
中冬西北微風紅袍ヲヒルガス意ヲ寫ス

金
袖子

朱
薄墨

浪土貝

墨



吳ノ南屏山ノ月ノ景
鳥鵲登色ノ景

寫錦台七

曹操橫斬賊詩

魏曹操後漢書の大名なりしり。擧ぐ軍功の功に丞相
 とあり。又呉の専らんと孫權と云。是と亡さん。ぬ百方
 勢と。平し。数方艘の船と。搦大は。浮め。船と。調練と。
 呉のあふ。周倫と。夫。又。玄。軍陣。諸葛孔明と。計と。
 合と。孔明の凡と。行。周倫。火。と。計。孔明の凡と。行。荆列へ
 肉計と。授け。曹操。降。孔明の凡と。行。荆列へ
 度。年。分。と。定。め。曹操。と。戦。し。時。建安十二年十月十日
 曹操。大。兵。と。率。領。乃。中央。浮。舟。向。將。其。上。と。坐。と。進。行
 み。錦。衛。の。社。と。し。孫。文。武。大。將。階。級。と。依。と。乘。と。集。り
 一。曹。操。勇。と。進。し。南。屏。山。の。月。と。映。と。畫。と。あ。く。あ。く。お
 酒。と。あ。く。は。と。奠。り。三。盃。飲。は。り。て。樂。と。横。と。信。お。よ。向。と。
 吾。は。樂。と。し。と。黃。巾。の。賊。と。破。り。天下。は。内。は。縦。横。と。ま。よ。と。
 大。丈夫。は。志。あり。吾。今。秋。と。造。見。汝。等。是。と。和。せ。よ。と。て

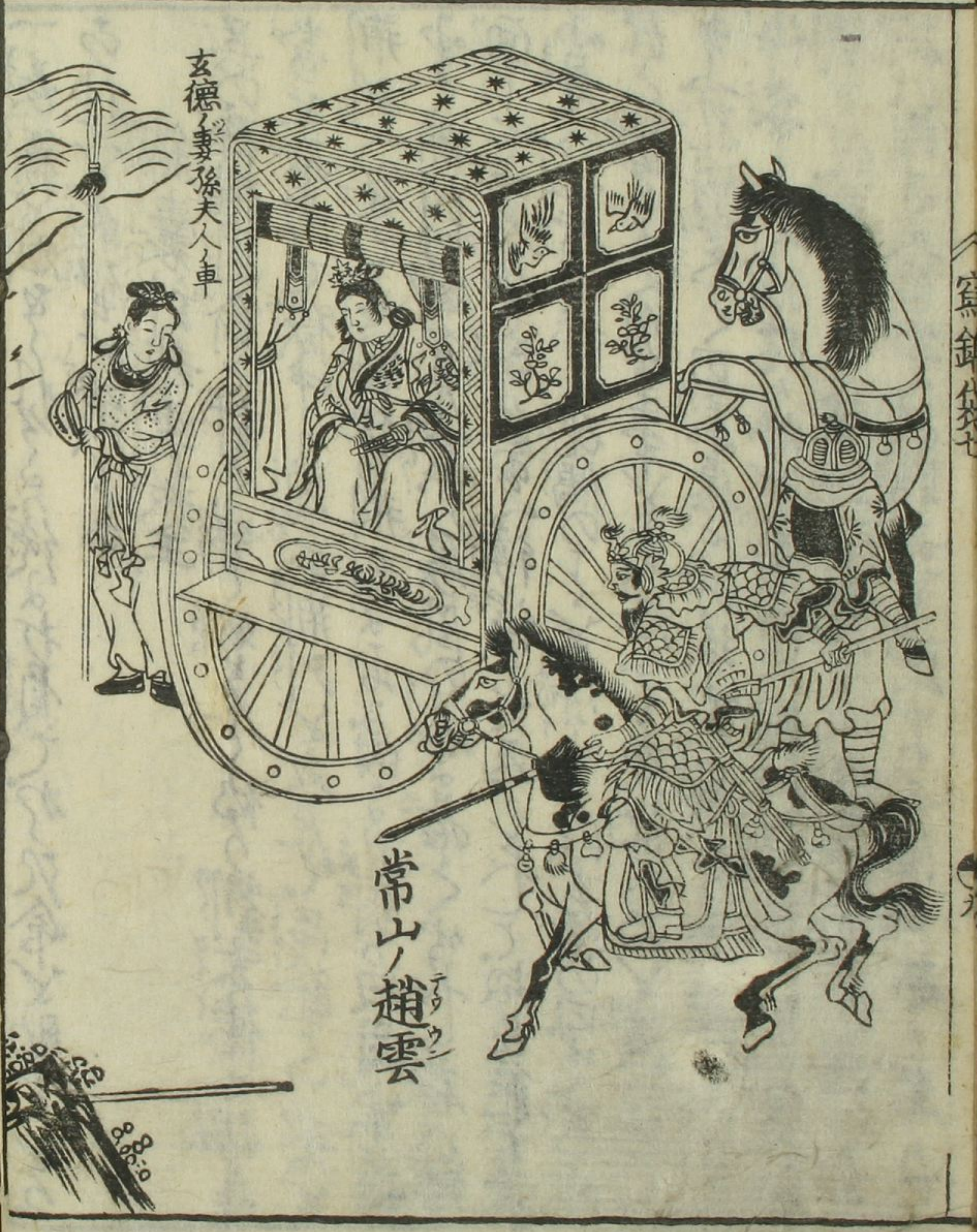
一長篇と賦と。これ。は。後。漢。の。打。負。て。お。れ。命。と。助。り。せ。り。
 あ。れ。と。不。破。れ。我。と。云。

錦囊計趙雲救主

呉の孫權周瑜と計く。妹と嫁と。今。仍。り。劉。雲。徳。と。招。と。
 弟。と。捨。り。て。獄。中。に。囚。金。荆。列。と。な。ん。と。長。輓。の。美。と。
 荆。列。へ。是。と。是。絶。ち。荆。列。は。あ。ふ。時。は。孔明。が。曰。周。倫。の。計
 中。に。荆。列。の。あ。り。ん。某。は。屏。風。の。後。に。居。と。せ。し。君。は。對
 面。して。突。座。を。面。を。向。へ。孫。權。と。五。と。米。と。叔。長。絶。ち。煙
 小。見。へ。孫。權。の。妹。と。死。偶。の。と。と。祥。と。中。に。玄。徳。の。曰。は。突。座
 へ。と。体。と。の。明。の。事。と。定。ん。と。夜。徳。夫。お。と。集。め。後。し
 孔明。笑。と。曰。某。屏。風。の。後。に。具。の。竹。小。け。事。大。意。と。
 祥。容。の。孫。權。の。妹。と。娶。り。向。荆。列。危。と。し。と。言。は。ん。と。
 決。と。は。孔明。三。の。條。の。計。と。書。写。し。綿。の。袋。に。入。と。趙。雲。に
 授。け。向。と。首。命。に。精。兵。と。添。へ。ら。と。玄。徳。お。船。の。案。り。と。



吳將陳武潘璋二人



玄德之妻孫夫人之車

常山之趙雲

寫錦堂

吳ノ塞外臨守
兵ヲ伏日置シ射



寫錦袋七

美髯公百赤ク
狀ヲ如シ眼
鳳ノトク鬚一尺
守身長九尺五寸
漆ノ袍ヲ着ス

青龍ノ偃月ノ刀
朱

周倉面色ワク
面虬ノトク鬚螭ノ



大銀紋
金紋

金二ノ

金紋

金

珠

也。周羽者、へつて視る。周愈色と願て曰、天上地下、只此わ
 系多の是、保川、河、周羽、之と愛、周愈が持つる、善、流、刀
 と提げ、あれ、國、家、れ、大、事、酒、後、子、福、と、言、た、と、言、て、自、く、と、也
 と、い、つ、周、愈、と、心、を、持、り、岸、に、登、り、ま、り、出、紅、の、旗、と、れ、を、招
 八、周、車、が、獲、み、百、余、人、子、舟、十、艘、夫、れ、く、東、に、行、く、馳、走、る、周
 羽、に、右、に、小、青、龍、刀、と、提、げ、た、れ、は、中、に、身、書、の、符、と、引、摺、り、
 伴、り、く、碎、ら、れ、た、符、と、あ、し、て、曰、い、色、と、是、非、と、論、せ、ば、悲、しく、い、故、回
 乃、情、と、傷、み、し、他、日、荆、列、は、後、と、一、會、せん、と、小、兒、と、提、げ、る
 が、あ、く、め、り、く、岸、に、登、り、ま、り、出、た、れ、は、あ、く、ま、り、漏、れ、と、り、け、る
 呂、蒙、甘、寧、の、何、と、出、く、八、魯、書、の、教、れ、ん、今、と、情、と、兵、と、制
 して、出、た、周、羽、が、船、に、風、を、吹、か、せ、て、去、る、れ、八、魯、書、は、危、死、
 一、之、酒、の、碎、ら、れ、て、く、針、後、の、あ、く、ま、り、は、ま、り、な、れ、あ、り、孫、權、が、
 と、若、け、ま、り、と、荆、列、と、攻、ん、と、後、一、を、れ、も、事、採、攻、め、る、と、何、と、
 せん、是、は、流、れ、く、め、り、と、計、り、た、れ、



龜臺金母

後漢降武帝
 嚴進蟠桃
 武帝自食其
 二帝欲留移母
 昆此桃非世間所有
 三千年一實耳偶
 東方朔於瀛洲窺之母指曰此兒已三偷吾桃矣朕則朔九千歲下
 一トモ書ハカリナシ妻若人ハ朔ナルカ



冥金巻七

巨靈人 八仙人の
大力神通の人なり

白虎仕立ゴフシ
章スミ

古文新集よ
巨靈山と傳

て世のそ
とわり又

白虎と毫
くまの



冥金巻七

吳猛 字世雲

都江之波の尉
彼風大よ何
白羽扇
水と畫て波
後亦白鹿車

舞

天の男



陳楠 字南

披髮して日おぼく教百里二の
大義波とこ
流の流と舟と
後とこ
切
傷く
着
公



通玄先生 八仙の内

ひこころり詢と
ふと術あり



陳楠 八仙の内

嘗て蒼梧の地に人あり。楠鉄鞭と稱して潭下に龍と遇ふ。浚更けて雷雨交作。予鉄杖あり。龍と出

る術と



何のちよれんといふことと知れぬ宋の江蘇府に在る茶と貨
年四十余ありて顔眉を肌體に描贅と生れ馬元と云ふもの夏月之に
隨て園園門を出て候池あり浴と云元因て隱居ハ乃ち大蝦蟇の
元處お返さし候俗人多く夜と看く出れば元亦と揖と候笑
て日子適ふ我と云ふ乃元と下して酒肆ありて飲ひ茶一粒と云ふ
与へて曰是と服せの事百歳かんと云ふ後元は

後元男

ある者

市中

茶と貨と

ん

と云

馬元



侯先生

孫博

好く書と懐こ
道と事お終く
事本として大
れ光りて
生か
ひあ中
とねも
夜不泊湯
山間石壁と
出ると
穴のあつ



張九哥

宋仁慶曆年中よ京師よ居りり多し時も早夜と看とつれ。其とき
身とて嘗て居くるとよ飲む後まよ見と曰き。此に及ぶまよつり
小技あり王と候めん乃ら羅とをく重畳と
剪て蝶の状と
かああよ
遊ひおちと
天目と
海の霧を頂て
之と煙ハ皆
年の後て
元の羅とある



費文律 字子安

道とゆふ仙とたり傳に辛氏酒後より酒とのむ辛後巨と及鶴と身
 へ飲ひ明日又事幸は奈とゆふて是を飲ひ心酔とてし教教略懐と
 か所幸に滑と白多酒城と負今め酌とて橋のはとれと必前よ一の
 鶴と圓と曰客あり飲とき
 必と拍と秋
 あめよ鶴
 必と力り
 舞んと後
 客もく飲時よ
 鶴もて海遊
 してま回旋死
 松曲音律よ
 中る遠近集と



飲と是と観と十年と跡と辛氏家
 賞巨方かり一日子安をてお償

何と向辛氏
 謝と曰先生黄

鶴と圓と圓と百傳と
 獲りけり謝せん

子安笑て曰何ぞ是が為よ
 せんやとゆふ



酒更めて自らをせり下る圓橋
 ぬく子安の赤い羽の結
 子安でさる辛氏と云橋と建く
 黄鶴橋と名く

黃鶴仙人
代費長房
ナリト云神仙傳
壺公遺費
長房歸以之
竹杖与之騎
長房杖ニツテ
忽然トシテ家
ニ皈ル竹杖ヲ
投葛波而
此ヲカキミレ
バ青龍ナリト
然レバ費長
房ニアラス
費文飛行
ノ圖ヲアヤミレ
歎





早稲田大学図書館

011688993425